

新宮山彦ぐるくぶ第1868回

深仙宿避難小屋・窓取付け資材荷上げとソーラー発電装置設置

◇実施日：平成28年04月16日（土）快晴

◇参加者：青木宏充（登山口前泊）、梶野照雄（発電所P前泊）。

川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、
濱野兼吉、畑村秀味、豊嶋 寛、橋本 梓、河上政方、
大江加予子、山口泰宏、湯川一郎、瀧本昭太郎、
斉藤和美。

17名。

当初、日曜日に実施予定であったが、雨の予報で繰り上げた。又、窓を据付ける予定だったが、松本板金さんが不参加となり松本さんが仕上げて下さる意向から、窓資材の荷上げとなった。

15日午後天辻峠付近で崩落があり、168号線が全面通行止となり、急遽不参加（佐藤）や迂回路、また新宮迄来て頂き（湯川・山口）ご参加頂いた。

今回の行事参加には我輩の足のスピードでは、長丁場はかなり遅れて迷惑がかかり無理ではないかと二の足を踏んでいたが、最近皆さんの活躍で着々と整備が進んでいる深仙宿小屋の報告を聞いて、早く見たい気もあり参加させてもらうことにした。

連日の熊本大地震のニュースを気に掛けながら、まんじりとしてない朝を迎え今日の体調を心配しながら家を出る。

新宮からは何時ものメンバーに初参加の河上さんも加わり3台（沖崎・川島・河上）に13名が分乗し、新宮六時に予報通りの良い天気を期待して沖崎車に乗せていただく。

満水の旭ダム貯水池を過ぎ、奥吉野発電所前駐車場に7時30分到着。前泊し待っていた梶野さん、程なく瀧本、斉藤さんと合

流し登山口へ、少し早い新緑の林道をひた走る、

休日でも好天気勢か登山客と思われる車が、天辻峠不通にもかかわらず何台も登山口駐車場に駐車されている。

本日の行動予定を代表から聞いて8時30分歩き出す。早や先頭はずっと先を行く、遅れまいと必死に付こうとするがなかなか追いつけない。程なく前に行く梶野さんに捲き道を教えていただき後を付いて行き、不動谷分岐で先頭に追いつくことができた。



登山口出発準備



不動谷分岐で小休止



尾根で展望を楽しむ

ここまで風景など眺める余裕が無かったが、遠くを見れば遙か遠くまで眺められる上天気なのだ、ここを何回も通ったが初めて気が付く山に恥ずかしながらも感嘆する。古田の尾根、千丈平で一休み。

ここから橋本さんが付き添って釈迦ヶ岳が初めての河上、斉藤さんの二人が登って行かれる。

我々は横道へと下り、伊富喜秀明師入定碑に黙とう、避難小屋に11時過ぎ到着。

早朝発だったので、先に昼食を済ませるらしく、皆それぞれの場所に腰を降ろす。



古田の森梶野)



千丈平・小休止



作業する者・昼食する者

何事ものろい我輩を尻目に早々と皆さん作業に取り掛かっている、ソーラーパネル設置と小屋内の5個の照明灯(前回梶野氏取付け)との配線接続には、児嶋、梶野両氏があたり山口・豊嶋・畑林等が手伝う。



ソーラーパネル取付け準備と屋根に設置中

配線接続で点灯(山口)

主に生熊・沖崎・川島は、灌頂堂前の倒れていた竣工記念石碑、木製標識(靡き行所標識)とお堂裏の石柱道標が傾きを建て直し、基礎固めに取り掛かる。各々傾いた標識を真直ぐに立て直し基礎

部に大石小石を詰め込んで大玄能で突き固めた。

ここで先ほどの行所標識に書かれた四十番行所は七十五奥駈摩きの中間だから三十八番行所の間違いではとの沖崎さんが指摘されたが、森沢義信著(大峰奥駈道七十五靡)でも本山派聖護院の名称を基準としているとして三十八番となっている。当山派醍醐三宝院の山伏の奥駈け出发点は、小笹ノ宿と言われているので四十番になるのかも知れない。又は順峰・逆峰によって違うかも知れないと依前何かの本で見た様な気がしたが定かで無く、私にも判らない一度調べて見たいと思う。



倒れた石碑・道標の復元作業



傾いた石柱道標復元

また、何人か香精水の点検もやってくれている、見れば水はポタポタではあるがかなり落ちてはいる、しかし水槽の中は落ち葉と小石が満杯で用を成してない 栓を抜いて綺麗に更えて置いたので少しの間、美しい水をすぐに登山者にはつかえるだろう。

この水は後ろの大岩・四天石をお釈迦様に見立てその臍から落ちていると言われ、灌頂堂での儀式に開伽水としての聖水で、ラジウムや金が含まれていて数年は腐らないとか、眼病に効く、又この水で刀剣をぬぐへば錆びない等さまざまな効用があるらしい

と森沢さんの先程の書籍に記されている。

次回2枠目の窓取付け箇所の外壁波トタンの笠釘は、今回の作業軽減のため、一部(トタン重なり部)を残し抜いた。(川島・畑林) さて小屋ではソーラーも照明器具の取付けも終わり試験点灯の段階だ、スイッチを押せば五箇所(LED)電球が点灯し昼間でも明るい、尚更夜ともなれば利用者はビックリするのではないかな。

今回は都合で窓の取付けが出来なかったが、これが出来たならば、以前の小屋と比べれば快適そのものだろう、避難小屋としては出来過ぎの感じがする位だ。

小屋の片付け掃除も終わりそろそろ帰りの時刻だ。釈迦ヶ岳頂上を踏んで下山する為先行した三人以外で記念写真撮影後、灌頂堂にて、生熊導師で全員勤行して14時過ぎ小屋を後にする。

今回は、有志四人が大日岳へも登る者も居て充実した一日になったのではないかな、度々付近の熊笹刈りをして呉れている青木さんは、電気バリカンを片手に下山時も刈りながら降りて行かれる。気になっていた千丈平までの太い倒木2本は、処理してくれたと聞く。



下山前の記念撮影



千丈平を過ぎた地点で倒木処理

釈迦ヶ岳頂上を踏んで降りて来られた滝本さん達は、約20分遅れて到着され、全員陽の明るい17時前に降り立った。再び発電所前駐車場にて終礼し17時半に解散して、各車それぞれ家路に付いた、皆さん大変ご苦労様でした。



桜満開の奥吉野発電所Pで終礼

行動タイム

新宮 6:00→7:35 奥吉野発電所 P 7:50→8:20 太尾登山口 8:30→
9:10 不動谷登山口分岐 9:20→10:30 千丈平 10:45→11:10 深仙宿
14:15→千丈平→15:55 不動谷分岐 16:05→16:30 登三口 16:55→
17:20 奥吉野発電所 17:30→19:15 新宮。(生熊 記)